

Ⅲ 一般演題A 1. SMONの高気圧酸素療法—臨床成績
ならびに動物実験

名古屋大学第一内科

祖父江逸郎 飯田光男 向山昌邦

名古屋大学第一外科

榊原欣作 城所 仁 川村光生

名古屋大学高気圧治療室

高橋英世 小林繁夫 小西信一郎

浅井れい子

SMONはその視力障害、下肢の異常知覚、運動障害に対し、特異的な効果を有する治療もなく、臨床治療上大きな問題がある。この問題に対して若干でも解答をうるため、約2年前よりOHP療法を施行して来た。

その間の対症症例は33例であり、男子13例、女子20例であり、女子症例が多かった。年齢構成は6～68才にまで亘っている。OHP施行は連日とし、一回は2気圧、60分を基準として行い、1クール80回を目標とした。OHP施行前に、耳鼻科的、眼科的、内科的に十分の検査を行ない、事故防止に留意した。

SMON症例の型別分類はMyeloneuropathy (MN) 16例で多数例を示し、Myelo-optico-neuropathy (MON) 10例、ついでneuropathy(N)は7例であった。

治療回数：MN型16例のうち、3例は中耳障害域は下肢の異常知覚増悪により、OHP40回未滿で中止の止む無きに至ったが、それを除く30例中40～80回は4例、80～100回は21例、100回以上は5例であった。100回以上の症例は何れも、重症の視力障害を有するものであり、若干の効果を認めたので、150回にまで施行回数を延長したものである。OHP中はビタミン剤以外特別のものは授与しなかった。

治療効果：全体的な評価では、効果良好は30例中17例(57%)、やゝ良好

7例(23%)、不変6例(20%)であった。若干でも効果のあった症例を含めると24例(80%)にもなる。

臨床症状：SMONでは運動機能の改善はいいと云われているように、筋力低下のみられた症例20例中、改善2例、やゝ改善は13例で計15例に何らかの筋力の増加がみられた。不変は5例であった。これとほぼ比例するが、歩行機能をみると、その障害例22例中改善は1例、やゝ改善は18例とOHP実施期間の短時日での改善は難しいことを物語っている。

これに反して反射機能は、目立つ変化はせず、深部反射は30例中亢進例2例に低下をみたにすぎず、病的反射は減退4例であった。

知覚障害は30例中、障害レベルの低下したものは7例であり、N型群にそれがよくみられた。深部覚は10例に改善がみられたが、病型との関係には特別なものは認めなかった。

自律神経症状改善は足のほてり、発汗出現、冷感減少などであるが、30例中改善2例、やゝ改善21例であり、中止例でも足のほてりが続き、靴下の不用となる症例もあった。

視力障害例は10例であり、それに対するOHP効果は他覚的改善3例、自覚的改善3例、不変4例であった。他覚的改善を示した症例は28才女子例、8才と7才の小児例であった。何れも視力の数量的改善を伴うものであり、自覚的改善例も天井のスジ目が見えたり、景色に色がつき出したとの訴えをするものもあった。

前述のように、SMONに対するOHP療法の効果測定は数量的な計測値の変化として現われてくるものは、筋力、知覚レベル、視力など僅かのパラメーターにすぎないが、しかし大凡そ症例の $\frac{2}{3}$ 以上に何らかの改善をみるということは、治療の行きつまった症例に試みてもいい方法であろう。そこでより効果をあげうる条件として次の4項目を総括しえた。

- 1) 老年者より若年者に効果が大きい
- 2) SMON発症よりOHP治療までの期間は短い方がより有効
- 3) SMON症状は中等症以下が望ましい

4) OHP 30~40回施行時に、自覚的、他覚的であれ、何らかの変化のある症例は、長期間のOHPによく反応する。

SMONに対するOHP療法の効果を確認する目的で、SMON家兎に対してOHP療法を行い、その効果を見た。まず20羽の家兎(体重2~4kg)にキノフォルム0.8g/日を約90日投与し、下肢に運動障害を起こさせ、その8羽に対し、OHP 2気圧、1時間加圧で40回行った。他の12羽はOHP治療に対するcontrolとして、自然経過のまま飼育した。この外、5羽は未処置群として観察した。この3群ともOHP治療の前後2回に亘り、坐骨神経の生検(半截)を行い、一般染色標本作成と共にnevve teasing法も併せ行い、比較検討を行った。OHP群ではOHP実施前後では、teasing法によるとランビュール絞輪間距離と神経線維直径との相関において、勾配の上昇、バラツキの増加がみられた。このことはOHP実施により神経線維の再生傾向が促進されていることを示唆している。

<質問> 岩手医大医学部第一生理 島崎吉夫

小児の場合の視力障害の改善はどの様な測定方法により、改善の度合の判定をされたか。

<答> 名古屋大第一内科 飯田光男

小児に対する視力障害治療の効果は、OHP前に視力表にて測定しうる程度の障害がindicationとして適当であり、高度のAtrophia nervi opticiでは期待が少ない。